

留学生受け入れ拡大へ

日中の日本語学校と協定

八戸

光星学院

八戸市の学校法人光星学院（法官新一理事長）は、中国との文化教育に関する交流を進めるため、日本語学校の「フジ国際語学院」（東京都）と「天津市河西区行知学園日本語培训学校」（中国・天津市）とそれぞれ連携協定を締結した。同法人が運営する八戸学院大学や同短期大学部が取り組んでいる留学生受け入れ事業の拡大へつなげていく方針だ。（近藤弘樹）



天津市にある日本語学校との協定書に署名する光星学院の法官氏（左から2人目）＝25日、八戸市の八戸学院大学



リモートで行った締結式で協定書に署名した法官氏とフジ国際語学院の山中氏＝21日

国際文化教育交流 6校に

フジ国際語学院は1989年設立で、日本の大学への進学を目指す中国人らに日本語を教育している。締結式は21日にリモートで双方をつないで行い、法官理事長とフジ側代表者の山中小白氏が協定書にサインした。山中氏は「日中の垣根を超えてこれからの世界を支えるグローバル人材の育成につながる」と確信している」とあいさつした。

天津市の学校は、国内や中国各地で数多くの日本語学校を展開している「行知学園」（東京都）が17年に設立した。締結式は25日にリモートで実施。行知学園代表取締役の楊桐氏は「日本で学びたいという中国の学生たちの情熱は新型コロナウイルスの影響で変わっているわけではない。国際

交流を進めたい」とあいさつした。

両校との提携は、八戸学院国際教育局の楊麗栄准教授（中国出身）のつながりで実現した。法官理事長は「交流の推進は、学生たちの視野を広げ、国際理解や国際協力、地域社会の活性化につながる」と話した。

光星学院の国際的な文化教育交流の連携協定は今回の両校を含め6校となった。